



氏名 YH
所属 文学部 言語文化学科
学年 2年

留学先 SEP (マラヤ大学)
留学期間 2024/08/18~2024/09/08

留学レポート Study Abroad Report

初めに

私は夏休み3週間を通して、マレーシアのマラヤ大学に短期留学しました。初海外・初留学で、たくさんの困難にぶつかりましたが、友達や先生にも助けをもらい、精神面で大きく成長することが出来ました。この留学レポートを通して、マレーシアの魅力を伝えられたら幸いです。

留学前

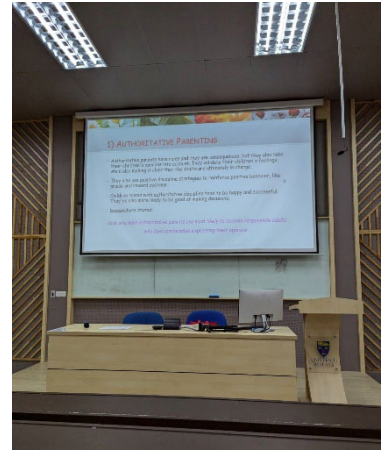
実はこのプログラムへの参加を考え始めたのは、去年の夏頃で、それまではずっと自分の専攻や趣味とより関連のあるイギリスやアメリカへの留学を考えていました。しかし、留学について先輩の話や、自分で調べていくうちにマラヤ大学の SoSHIP では「英語を学ぶ」のではなく、あくまでも英語はコミュニケーションの手段とし、もっと深い所を「英語で学ぶ」授業があると知り、次第にマレーシアへの留学を視野に入れるようになりました。SoSHIP への参加条件は様々ですが、TOEIC785以上、今回は参加者の上位2名という新たな条件があり、私は今年の1月に受けた TOEIC でまだまだ条件に届いていなかったため、春休みを費やしてもう一度 TOEIC を受けました。留学前から語学力を鍛える必要があり大変でしたが、このおかげで自信をもってマレーシアに渡航できたと思います。

開始直後のホームシック

正直たったの3週間で、しかも最初の1週間でホームシックになったというと笑われるかもしれませんが、私は留学開始から2日という速さでかなり重めのホームシックになりました。今まで一人暮らしもしたことがなく、少し神経質な性格であったことが理由だと、今なら冷静に考えられますが、当時は非常に辛く、相談する相手もいなかったため、とにかく早く日本に帰りたいと思っていました。しかし、Adolescent Psychology の授業で、偶然先生にホームシックになったことを伝える機会があり、そこから同じ班の友達やバディにもホームシックだと打ち明けたことで、自分の気持ちを整理でき、一人で抱え込む必要はないと気づくことが出来ました。ここで SEP の醍醐味とも言えるバディ制度に救われるとは思わず、留学したのがマレーシアで本当に良かったと感じています。

授業について

続いて授業についてですが、ホームシックの話題からも分かるように、どの先生も優しく気さくな方々ばかりで、何があっても授業には出席したいと思ったほど楽しかったです。SoSHIP では主に Language, Media, Adolescent Psychology, Politics, Gender, Southeast Asia と 6 つの授業があり、1 コマ 2 時間を一日 2 コマずつ受けます。私の名前が、マレーシアで有名な歌手の名前と同じで覚えやすいという理由から、授業中に当てられることが多かったのですが、そのおかげで英語で話すことへの恐怖が薄れ、授業に集中することが出来ました。また、SoSHIP ではテストの代わりにプレゼンをどの授業でも行いました。最後の 1 週間にはインドネシアからの留学生も一緒に授業に参加し、プレゼンやクイズを受け、英語を通して共同作業を行う難しさを身をもって感じました。



フィールドトリップと週末の観光

土曜日や授業の後は、Traditional Dance and Music の授業と交互でフィールドトリップに行きました。クアラルンプールにある観光地にはほとんど行ったと思えるほど、たくさんの場所に連れていっていただきました。その中でも特に、プトラジャヤにある高校で子供達と行った「丸バツゲーム」や、「だるまんが転んだ」、「ソーラン節」がとても楽しかったです。また、土曜日にはバスで 2 時間かけてマラッカや村に行き、様々なアクティビティに参加しました。左の写真は、セランゴール州にある小さな村で描いたバティックの絵です。大学生ながら皆で凧揚げをしたり、ロティチャナイというマレーシア料理を作って食べたのはとても新鮮で、大切な思い出になりました。

留学を終えて

最後に留学を終えて感じたのは、家族や OMU の友人の大切さ、そして人に頼ることの重要性です。ホームシックになった時も、ホーチミンから日本への航空便が台風で遅延し、夜中の 7 時間弱を空港で過ごした時も、皆がいたからこそ乗り越えることが出来ました。この場を借りて、自分を支えてくれたバディ達、3 週間で出来た友達、OMU の友達、家族、そして国際交流課の皆さんに感謝を伝えたいです。本当にありがとうございました。皆さんもぜひマラヤ大学で素敵な夏を過ごしてみてください！！

